

八尾歴史物語

五十一巻

河内名所図会をあるく④ 恩智街道・前編(幻の都へ)

江戸時代の観光ガイドブック『河内名所図会』(以下「図会」)を基にした東高野街道の旅は、河内国の式内社・恩智神社で終わりとなりました。そこで今回はさらに西へ下り、東高野街道と恩智街道が交差する場所にある萩原家住宅(国登録有形文化財)から旅を再開しましょう。

恩智街道は、明治22年に大阪鉄道が湊町駅(現在のJR難波駅)から柏原駅の開通時に設置した八尾駅(現在のJR八尾駅)と恩智神社を東西に結んだ道で、明治時代に恩智街道と呼ばれるようになりまし。この街道は、恩智神社やさらに東の信貴山・朝護孫子寺に通じ、参詣の道として、古くから使われていたようです。また、西では大和と河内を結んだ奈良街道から分岐した八尾街道と交差するなど、主要な街道と村々をつなぐ役割があったと考えられます。

恩智街道を西へ下ると、左手に恩智神社のお旅所たびしょがある天王の森が見えてきます。周辺は弥

生時代の大きな集落として有名で、平成7年に大阪府指定史跡になっているところですよ。

さらに西へ進んで、玉串川を越えると、田畑が広がる場所に出ます。

ここが「都塚」と呼ばれ、『統



▲現在の都塚の様子

日本紀』に記された称徳天皇と道鏡ゆかりの都・西京のあった地とされている場所です。この西京の中核となる由義宮ゆけのみやと由義寺ゆけでらの場所については、長らく明らかではありませんでしたが、平成29年に由義寺の塔基壇が見つかったことは皆さんご存じでしょう。

図会でも、「弓削行宮ゆきぞく」や「都塚」「由義宮」「弓削寺址」が紹介されており、当時の人々がいにしへの歴史にゆかりのある地を訪ねていたことがわかります。

☆問合せ 文化財課

TEL 924・8555

FAX 924・3995